

コストで選ぶと失敗するクラウド会計

好きな時にどこからでも入力できる。パソコンが壊れても、データは保全されている。しかし、そんな薄っぺらな検討だけで移行すると失敗してしまうのがクラウドである。筆者の事務所では顧問先におけるクラウド化支援の実績を増やしているが、特に基幹系システムのクラウド化は、企画段階で十分な検討が必要であることを痛感する。

会計のクラウド化で期待されるのが、顧問先との関係。作業に追われる会計事務所にとつてクラウド化が業務の効率化に繋がれば、その分だけコンサルティングに時間を費やすことが可能になる。

入力を担当する経理部、経営数値をいつでも確認したい経営層、そして、会計データをチェックする会計事務所。この三者が会計情報を共有する環境を簡単に構築できるようになってきたことは事実である。

しかし、企画段階で十分な検討を怠れば、これまで単体のパッケージソフトで簡単に実現できていたことができなくなり、クラウドシステムも全く使えない代物になってしまう。特に、管理会計を導入し、自社の財務データを経営に活かしている企業は、時期尚早ということもある。

現に筆者の事務所は、早い段階で電子申告化に取り組んできた。しかし、平成十六年、名古屋局管内より段階的に運用されてきた電子申告だが、あえて完全電子申告化を三年遅らせたことで、事務所経営にダメージを与えることなく移行することができた。全てにおいて素早い対応を否定するわけではないが、移行フェーズを意識することも成功要因に繋がる。

管理会計から税務申告までを意識したスムーズな運用が想定されなければ、会計事務所は顧問先に対して質の高い対応を図ることはできず、双方メリットのある関係は描けない。顧問先との関係に十分配慮されたクラウドの発展をこれからも応援していきたい。

税理士 三保 俊輔

広島県広島市東区光町一丁目二二二〇
TEL.082(2694)1572